

## 平成 28 年度 “大歳神社のフジ（通称千年フジ）” の年間管理記録

調査及び施工者：段林弘一・宮田和男・安田邦男・鶴田 誠

鳥越 茂・竹見一洋・稲葉 広・鬼丸貞英・谷川 亘



(写真-1) 平成 28 年 4 月  
スノコを木製から樹脂製に替える



(写真-2) 28 年 4 月 27 日  
フジツボミタマバエの除去



(写真-3) 28 年 7 月 30 日  
7 名の樹木医によるフジの強剪定

平成 7 年に樹木医会がフジの管理について相談を受けたのが始まりで、平成 15 年には樹勢回復作業を手掛け、以来、千年フジ保存会の方と共にフジの管理にかかわってきた。14 年に根系を守るためにスノコを敷き、その効果により樹勢が回復し、平成 20 年～22 年に掛けて房は約 150 cm まで伸長し、その美しさと香りが評判となり多くの観光客を呼ぶようになった。木製のスノコが腐ってきたので 28 年 4 月には樹脂製の板に張り替えた(写真-1)。

しかし、スノコを敷くとその下に落ち葉がたまりフジツボミタマバエが異常に繁殖しフジのつぼみに卵を産み付け、花の咲かないフジが増えてきた。写真-2 はフジツボミタマバエの寄生した房を樹木医が除去しているところで 9.5 人役を要した(写真-2)。

また、平成平成 25 年には古くなった藤棚を鋼管パイプに取り換えたため、フジの蔓が約 40～50 cm 上がり、棚に下がる房が短くなり、顔に当たるほど長い房を期待する来園者の希望に添えなくなった。房を長くするには強剪定により花の数を少なくし、葉には十分な光を当て、木に栄養を蓄積させる必要がある。強剪定すると次の年の花の付きは悪くなるので、慎重を期し藤棚を 4 等分し、そのうちの 1 箇所を剪定した。また、上に登ったツルをシュロ縄で引つ



(写真-4) 29年2月11日  
保存会の人による剪定



(写真-5) スノコの上に敷いた不織布

張り藤棚の鋼管に括り付けて、花が藤棚から長く下がるようにした(写真-3)。例年、開花を迎えるにあたり 2~3 月に保存会の人々が剪定を行っている。29 年も雪の残る中、約 40 人の人が剪定を行った。千年フジにかける地元の人の思いと強さが分かる(写真-4)。千年フジの一番の課題はフジツボミタマバエの被害をいかに抑えるかにある。スノコの下に生息しているツボミタマバエが飛び出す前にスノコの表面に織布を敷き、飛び出しを抑えることにした。幅 1m 長さ 50m の不織布を 5 巻使用して敷き詰め、隙間ができないように端をテープで止めた(写真-5)。